（別紙4）　　平成　28　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2775802214		
法人名	有限会社　永世会		
事業所名	グループホーム　成寿苑　1ユニット		
所在地	大阪府大阪市平野区平野東　4丁目　1-26		
自己評価作成日	平成28年5月31日	評価結果市町村受理日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2775802214-00&PrefCd=27&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【理　念】
・できる事は自分でやります
・私は私も大切だけど
　共同で生活しています
・笑ってばかりいられない
　怒る時も泣く時もあります
・社会の中の地域で暮らします
・できない事は協力します
・迷う事あっても大丈夫
　まかせてください
・「いってらっしゃい」「おかえりなさい」
　いつも笑顔で
・人生の先輩

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者が自宅で暮らすのと同じようにできることに力を発揮しながら家事をしたり地域に出かけるなど、できないことを職員が協力し活気ある生活に向けて支援しています。多くの利用者が運営推進会議に出席し暮らしの感想や外出先の希望などを伝えサービスに反映したり、ホーム内では安全に移動できるように手摺を増設したりトイレなどがわかりやすく表示する等利用者の力が活かせるよう支援することに努めています。日常的に散歩や買い物に出かけた際に挨拶する中で馴染みの関係ができ、店の方からボランティアの情報をもらったり、車いすを借りに来る方もおり、地域の方々との良好な関係を築いています。また看取りの支援にも取り組み、医師から説明を受け本人や家族の希望にそって協力を得ながら訪問看護師にケアの方法のアドバイスをもらいチームで支援しています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念として、運営者のごくあたりまえの身近な思いを表わし、掲げている。『理念』について深く考え入社時研修時にも共有すべく力を入れている。毎朝の朝礼時に基本姿勢の確認として全員で唱和し、申し送り・ミーティング・苑内研修時にも事あるごとに立ち返り常に理念を意識しながら「その方にとっての普通のくらし」の実践に向けて取組んでいる。	利用者の立場に立って望む暮らしや職員の支援の方向性を言葉にし理念を作成し、玄関や各ユニット、事務所などに掲示すると共に朝礼時に唱和しています。研修やカンファレンスの際には理念に立ち返り、一人ひとりに寄り添い理念に沿った支援となるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な近隣のパン屋さんやスーパーなどの商店への買い物や散歩に出かけている中で、挨拶を交わし、気軽に声を掛け合えるきっかけ作りに努めている。地元の祭りや盆踊り大会などに入居者と共に積極的に参加している。地域交流会や地域ネットワークのふれあい喫茶にも積極的に参加している中で入居者様が以前住まわれてた近所の方と出逢われたり、家族様と待ち合わせて同じ時間を過ごしたりすることも増えてきた。公園清掃ボランティアを入居者様と共に活動、地区中学校生徒の職業体験などの活動を受け入れることや、大阪介護支援専門員協会当地区の事務局を担うなど事業所自体が地域交流の機会を多く持ち、入居者と共に地域の一員である様に心がけ努めている。	自治会に加入し地域の行事や活動等の情報を得て、祭りやふれあい喫茶等の様々な行事に参加し交流を深めています。日常的に散歩や買い物に出かけた際に挨拶する中でなじみの関係ができ、店の方からボランティアの情報をもらったり、車いすを借りに来る方もおり、地域の方々との良好な関係を築いています。また、中学生の職業体験や音楽などのボランティアの受け入れを行い交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症や介護についての相談を受けた際には事業所での実践内容や培ってきた成果を伝える取組みをしている。人材育成のため実習生受け入れや認知症キャラバンメイト登録など地域に貢献できる態勢を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予定行事や活動内容の報告、前会議で取り上げられた検討事項や改善事項の経過を話し合い、活動内容の評価と苑への要望・助言を頂き、参考にさせて頂いている。消防訓練の実施なども会議に盛込み、出席者への実施報告としている。入居者ご参加の茶話会やイベントに合わせて入居者の表情に会っていただいている。入居者のご出席においてなるべく様々な人にご出席いただいており、苑内の寄合いとして入居者からのご意見をいただき、今後の予定を立てる機会にしている。	運営推進会議は多くの利用者をはじめ、町会総務部長、地域包括支援センター職員等が参加し隔月に開催し、不定期に家族の参加も得ています。消防訓練や納涼祭等の行事と同日に開催し、ホームの様子を知ってもらう機会にもなっています。利用者から外出先の希望が聞かれ出かけたり、参加者の意見から消防訓練開催を近隣に知らせ訓練を見に来てもらえたこともあり、様々な意見交換がなされ有意義な会議となっています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大阪市の担当者との連携は不可欠と考え、いろいろな場面でご協力頂いている。当事業所の取り組みも随時報告している。大阪市グループホームネットワークや認知症介護リーダー研修、近隣地区との勉強会などにも関りながらの実践や取り組みにもお顔合わせの機会も多い。その他大阪市支援事業の各ネットワーク、平野区よいよいネット、平野るんるん交流会、福祉の職場研修推進研究会など複数参加しており、あらゆる面からも連携に努めている。	市の事業所のネットワークや区の開催する平野区よいよいネットや平野るんるん交流会などの会合が多くあり、参加することで情報交換の機会にもなっています。日常的にも運営上の困ったことやわからないことがあれば、直接相談に行きながらアドバイスをもらい良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時をはじめ、定期的及び随時の研修で身体拘束を取り上げスタッフに意識付けている。身体拘束防止の取り組みのもとスタッフは拘束のないケアを心がけており、あいまいな状態の時は管理者に相談。疑問があれば随時話合える体制作りに努めている。玄関に関しては常に施錠している状態ではあるが、外からの侵入を防ぐことが前提であり、外へ出たい思いをキャッチした場合にはいつでも解錠できる扉である事をスタッフ一同共に心掛け、入居者に伝えている。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、研修は入職時をはじめ毎年実施し職員に周知しています。玄関は防犯のため施錠していますが、簡単に中から開錠できる状況であり外に行きたい様子があればできる限り一緒に出掛けるようし拘束感の無いように支援しています。言葉掛けについても制止するのではなく話をしながら理解し合えるような関わりをしています。階段での転倒防止に向けて鍵をするのではなく防犯カメラの利用や手摺の増設で安全に移動できるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入職時をはじめ、定期的及び随時の研修にて周知徹底し理解と意識付けを行っている。外部研修として大阪府地域福祉推進財団が企画する人権研修には毎回、できる限りのスタッフを受講させている。また、大阪市からのリーフレットをマニュアルとして使い、随時配布して、定期的に学ぶ機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には活用できる支援を行いご入居者の状況を把握し支援している。制度についても積極的に学ぼうと努め、活用に向けての選択肢としても提示できる様に努めている。現在活用されている方には活用の継続と滞りのない様に協力と支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項の説明と共に事業所の方針とケアへの取り組み、起こりうるリスクについて、入居者と家族、事業所との共通認識となるように詳しく説明し同意を得ている。解約時にも同様に今後の方針を話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の立場に立った運営やケアができる様、ご様子から思いを察することが出来る様、務めており、その都度、思いに傾聴している。 ご家族様のご来苑時、できるだけお話しさせて頂く時間を作り、玄関先に『ご意見箱』を設置してご意見を頂きやすい環境に配慮している。	利用者と日々の関わりの中でゆっくりと話を聞くと共に、運営推進会議に出席してもらっており率直な意見や要望を出せる機会となっています。家族の面会は少なくとも月に1回はありコミュニケーションを図り日頃の利用者の様子を伝えると共に意見や要望を聞いています。家族から利用者が外出を希望しているとの意見をもらい、外出の機会が少なくなっていることに気付き改善する等、意見や要望をサービスの向上に活かしています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はスタッフと関わる時間を大切にしており、気さくな間柄で信頼関係を築いている。普段の何気ない会話の中からでも意見や提案・要望を聞き出せるよう心掛け、働く意欲向上に繋がる様に努力している。ミーティング時に疑問を聞いたり、意見を出し易い環境作りに努めている。	常勤と非常勤と分けて行われる職員会議と勤務形態関係なく行うカンファレンスとフロアごとのミーティングがあり、積極的に意見を出し合っています。代表が現場にいることが多く代表は個々の職員が話をしやすい雰囲気を作り、また少人数ずつ食事会を開き何でも言い合える関係を築き、悩んでいる様子があれば個別面談で話を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てる働きかけを考えている。資格取得に向けた配慮と支援を行っている。本人が希望する休みは極力かなえられる様に最大限に努力している。代表者も現場を知るため頻繁に苑に来ており、入居者や職員と過ごす時間を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が外部研修や各ネットワークで学んだ事項を持ち帰り、事業所内の問題点と照らし合わせて、わかり易い形で苑内への研修などに加え通達している。 苑内研修にてスタッフへ知識共有と日々のケアに繋げていける様、毎月、その時期に必要な周知事項を研修内容として検討・実施している。 日々の介護記録やカンファレンスシートにセンター方式を取り入れ、認知症介護のOJTを実施、また、スタッフの能力や実績に見合って法人外研修を積極的に受講させ、苑に持ち帰り他のスタッフへ報告会の場を作り反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに加入。 サービスの質の向上、職員育成に向けて、会主催の勉強会、他事業所間・他事業所現場スタッフ同士の交流と意見交換の場にも積極的に参加させており、実践ケアに活かせる様努力している。他事業所で開催されるお祭りやコンサートにお誘いされ、積極的に参加させていただく機会も多く、他事業所見学や受入れなど相互の協力、交流の取り組みを実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて直接ご本人の自宅へ出向き生活状態を把握できるように努めている。安心して契約して頂ける様、ショートステイ体験入居を利用して頂いた上で入居に至れるよう配慮している。ショートステイであっても以前から住んでいた様に心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談を受けた際即、何かしらの対応をする様に心掛けている。当苑の空きが無く対応出来ない場合には平野区及び近隣区の空き状況を情報収集の上情報提供させて頂いている。ご家族のご要望や困り事の解決が当苑を選定することにより可能かも考えすすめていく様に努めている。 ご入居前には現住まいを訪問させて頂き、生活のご様子を伺っている。馴染みのあった家具の持ち込みなど少しでも馴染んだことが再現できるように意識している。ご家族との連携が取れていると思う。ご家族の不安があれば、解消できるように何度でも説明し、今後のご要望を含めて聞かせていただいき、初期の関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、ご本人とご家族の真のニーズと、当サービス・当苑を利用されることが適切であるのかを照らし合わせてお話を進めていく様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『人生の先輩教えていただくことたくさんあります』理念の通り、主体性は利用者であることを念頭に置いている。利用者、職員の関係だけでなく、人対人、共に支え合える関係作りを目指している。『喜・楽』は勿論、『怒・哀』を生きる中で当り前の感情として捉え、不安や辛さへの理解と共感に努めている。お話をする中で人生観を聞かせていただき、ご本人の生活歴に触れ、様々な方面で教えて頂く場面が多く、そういった場面設定支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来苑の際、入居者の様子や状況の変化、支援の取り組みについて報告している。ありのままの状況を伝え、ご家族に対して必要な協力を得られるように事前に報告している。両者の『家族を想う気持ち』を大切にしご家族の代行という支援とご家族の役割を相互に考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に通って頂いている。一時帰宅でこれまでと同じようにご家族や隣人と過ごす時間を作ったり、馴染みの地の地元のお祭りに参加したり…。1人ひとりの人間関係や習慣が継続することが出来る支援をしている。	以前住んでいた地域の祭りや利用していたデイサービスのイベントに参加したり、利用者の希望を聞きよく行っていた寺や歌舞伎座などに個別対応で出かけています。また近所に住んでいた友人や幼なじみ等の来訪がありフロアで過ごしてもらったり、居室に椅子等を準備しゆっくりできるように支援しています。年賀状や年賀状のやり取りが今までと同じようにできるように支援し、これまでの関係が途切れないよう取り組んでいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者同士で過ごして頂ける様にハード面での工夫と場面作りに努め、それを遠くから見守る姿勢を実践している。ティタイム・食事時間を職員も共にし入居者間の会話を持てるよう支援している。輪の中で孤立されることで孤独感が増すことのないように日々関わり合える関係を築いている。毎朝夕の申し送り、カンファレンスで関わりの様子や内容についてスタッフ間の連携と情報共有し、話題を保てるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご転居先を訪ねたり、お見舞いに伺ったり、可能であれば苑内のイベントにお誘いしたりとご本人にとって、前居であった歴史と繋がりを大切に考えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で個々の把握に努めている。コミュニケーションを通じて表情や会話の中から希望や意向を汲み取る様に努めている。日々の介護記録やカンファレンスにご本人の実際の言葉を採用できるセンター方式を活用しており、。ご本人の言葉に隠された想いに寄添えるべく努めている。地域運営推進会議に参加され、ご自身の意見や要望を出席者の前で発表されることもある。今までの生活を苑でも再現できる場面を大切にしている。	入居時に生活歴や暮らし方の希望等を聞き思いや意向の把握に繋げています。利用者が話した言葉のまま記録に残し職員間で共有し、日々の関わりの中で得られた情報は中間評価を行う際には個々の職員が利用者の思いについてまとめ、カンファレンスで本人本位に話し合いながら集約しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に聴き取らせていただくことは知り得たスタッフから他のスタッフへ情報共有し、日常の関わりで自身の語られる言葉の中から、また、ご家族の語り、互いの会話の中からご本人の増えていく情報を把握し共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの生活リズムを把握できる様に努めている。日々の申し送りの中で身体面や病状の変化、精神的変調を伝え合い、経過を追いながら情報の交換と共有に努め、ケアをすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの中で現状況を確認し、ご本人・ご家族からの情報とセンター方式を活用した情報を元にご本人の暮らしや思いに沿った課題を定期的にカンファレンスで意見交換し、介護計画に反映させている。課題を分析し、介護計画を作成、実施、見直ししている。	利用者の思いやアセスメントの基にサービス担当者会議を行い介護計画を作成し、毎日短期目標にそった実施状況をチェックしています。6か月～1年の期間を決め3か月毎にカンファレンスを行い、変化のある場合はその都度見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、看護師や医師等の意見や家族の意向を再確認し、サービス担当者会議を開催しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がより生きいきと記すことができる様、本人が何を見てどんなことを感じるのか、ご本人が行動するきっかけと実際の行動、言葉をダイレクトに記すことができるセンター方式を採りいれ活用している。 言葉、行動の変化など感情の理解に努めており、状態をグラフで捉えることでその方の一日の感情の揺れが把握できる様式となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	余裕のある人員配置により、より多くの要望に柔軟に対応している。その瞬間に感じた行動を制限しない支援に重点を置いて実践に努めている。 地域資源の活用を努力し、帰宅支援や行慣れた商店を利用、入居前に利用されていたサービス事業所に遊びに行くなども他事業所の協力を得る努力もしている。一緒に生活している三匹の犬の存在も大きく、精神不安時に愛おしく犬を抱きしめ、安定を取り戻される様子や犬を相手にお話やお昼寝をされる様子は人形やぬいぐるみでは感じて頂けない役割を担っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りなど季節ごとの催しを楽しみに地域の場を利用している。買い物の帰りに図書館に立ち寄ることもあり、楽しみとして支援している。 ふれあい喫茶の利用は頻度が高く、公園愛護会の清掃ボランティアに積極的に参加し、地域に暮らす一員としての自覚を支援している。 地区敬老会や市民交流の場に積極的に参加できる支援を実施。地域校区の中学校吹奏楽部の慰問にて異世代交流を楽しませてくれるなど、地域資源活用の充実が暮らしが豊かになれる働き掛けとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフ、管理者、訪問看護などと連携しながら適切な緊急時体制を整え取り組んでいる。 専門医受診はご家族の協力も頂きながら、必要な病院に受診できる様に支援している。 すぐに緊急連絡できる様に各ユニットに連絡番号が張り出されている。	基本的に月に2回の協力医の往診、週に2回訪問看護による健康管理を受けており、異常のない場合は面会時に健康状態について伝えています。協力医も訪問看護師も24時間連絡が取れ指示や対応してもらえる体制を整えています。専門医への受診を継続している利用者もおり、状況に応じて家族に手紙を持って行ってもらったり、職員も一緒に同行、家族が行けない時には職員が受診支援をしています。希望者には週に1回訪問歯科によるケアを受けています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/週、訪問看護師が来てくれる中、職員との連絡・連携にて日常の生活状況を把握、健康管理とアドバイスをしてくれる。 夜間にも相談に応して下さり、気になる事は些細なことでも積極的に相談できる。 随時、主治医へ報告、連携を取ってくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際には速やかに日常生活の状況が判る情報書類を提供する。どんな状況であっても、ご本人らしさが重視して頂けるよう生活歴など解り易く伝えられるよう努力している。地域の連携としても良い関係を保てている病院もある。入院でお世話になる医療機関は状況により定まっていないので新たにお世話になる病院との連絡、連携も努力している。 入院先では担って頂けない事柄に関しては連携の下できる限りの協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期だけでなく、病状に応じて、ご本人やご家族の意向に伴い、主治医の治療方針と苑の方針とを話し合う機会を作っている。 各関係者が家族、ご本人の意思、想いの共有に努めている。	重度化した場合や終末期の対応指針にそって本人や家族の希望があり協力を得ながら看取り支援ができることを入居の際に説明しています。看取り支援の経験もあり、重度化した段階で医師から家族に状況の説明があり話し合いを行い支援の方針を決め終末期の介護計画を作成し連携よく支援しています。訪問看護師にケアの方法のアドバイスをもらい、申し送りノートで職員間で共有し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがある。 AEDの備えあり。 緊急時の連絡体制を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練を2回/年実施しており、火災発生時の通報手順・避難経路・消火方法など全職員、全入居者参加の下訓練を行っている。 事業所内だけの訓練と考えず、隣家・地域住民の参加と協力を呼び掛けながら訓練を実施している。防火訓練を通じて注意点の再確認をしている。	消防訓練は年に2回昼夜を想定し、うち1回は消防署の立ち会いの下通報や初期消火、避難誘導の訓練を実施しています。運営推進会議を兼ねて行うことで地域の方の参加が得られ、会議の中から近隣の方にも訓練の実施を知らせて欲しいとの意見が出され案内を配り参加が得られるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念通り、一人ひとりを大切に考え支援している。普段の生活の中での言葉かけや言葉使い、口調にも配慮しながら関っている。カンファレンスの度に個人の誇りや尊厳を損ねることのない対応を徹底できる意識向上を図っている。 個人情報取扱に関し、全職員に守秘義務等の周知徹底を図っている。	接遇マナーや人権、プライバシー等の研修を行い、利用者を人生の先輩として尊重した対応に努めています。職員の思いではなく利用者の立場に立ち対応することを基本とし、 個々の信頼関係を構築したうえで親しみのある言葉掛けをしています。利用者の様子をみてその時々に合わせた声掛けに努め、不適切な対応があれば都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主体は入居者ご本人にあることを日頃から念頭に置き支援しており、何か行動する際にはご本人のご意見を聞くように努めている。表情での汲み取りに努め、自己決定できる場面を多く持ち、受容の姿勢と体制、選べる環境を整えている。 運営推進会議でもご本人からのご意見やご要望を聞かせていただき、今後の予定に反映させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性が重視できる支援を心掛けている。今までの生活歴を尊重し、個人の生活を大切にしながら共同生活を営める様に努めている。長年携わってきたことや職歴が活かせる場面を支援。 個別ケアを実施しその人らしさを引き出すことで自信や意欲向上に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き慣れた馴染みの美容室の継続利用を支援している。美容室でご近所の方と会われたりして喜ばれる姿が見られる。美容室側も苑の働き掛けをご理解下さり、ご協力下さっている。女性あれば外出時には、化粧を施し、いつまでも女性である気持を持ち続ける支援、気分転換の支援を実施している。 男性の髭剃り声かけなど身だしなみ支援を実施している。事情により美容室に行けない方やご本人のご希望に合わせてスタッフが髪染めやカット、顔ぞりもお手伝いさせていただいており、美しくありたい女性の気持ちを受け止め支援している。行事や催事の時にはより一層身だしなみの支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備～後片付け迄を食事の一連として考え、各々の力に添った役割を持ちながらスタッフと調理や配膳、下膳、後片付けの作業を共にしている。ここでも入居者に教わることが多く、調理の苦手なスタッフは味付けを教わったり、ご本人のやり慣れた方法やこだわりが見えてくることが多くある。特に朝食のスタイルは各々の習慣の違いが大きくみられる。パンなどの洋食、おかゆなどの和食とご本人の好みや希望を選んでいただいている。ここでも習慣継続と自己決定の場面として支援している。	業者の立てた季節や旬のものが盛り込まれた献立にそって食材が届いたり、ホームでも利用者に食べたい物を聞き買い物に行き調理しています。台所が広く流し台も2箇所あり、利用者と一緒に料理や後片付けができる環境も整えられできることに携わってもらい、職員も一緒に同じものを食べ食事の時間を楽しんでもらっています。朝食は起きた方から個々のタイミングで好みに応じて作ったり、ミキサー食の味付けにも工夫しています。また個別対応で回転寿司などの外食にも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を記録している。状況の良し悪しを申し送りで話し合い、情報として共有している。個別のバランスについても把握に努めている。 病状に合わせ甘味料の工夫、創傷管理の重要な方や低たんぱく症が進行された方にはプロテイン補給の働きかけなど、主治医の許可をいただきながら、病院以外でできることを探し取り組んでいる。食は生命の源である意識を高く持ち、体調や認識力、嚥下状況に応じて食べ易く、飲み込み易い形状（とろみ使用やペースト食など）を工夫している。食の細まった方には個別で食の詳細メモをつけて共有し、何でもがチームの手掛かりになるように努めている。 最期まで『食べる楽しみ』が維持できる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で義歯管理している方、すぐに紛失してしまう方等それぞれ個々の有する力に合わせた支援をしている。毎食後の歯磨き誘導・口腔ケア実施、毎晩の洗浄を促し支援を行なっている。ご自身では全くできない方にはガーゼを使用し歯茎間も拭うなど全面的に支援している。食べカス等で起こり得る誤嚥性肺炎の予防として取り組んでいる。歯科医との連携、口の中の健康と食事の楽しみに繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを探るため、排泄チェック表を付け、個々のリズム把握に努めている。一斉支援ではなく、個々の排泄リズムに基づき、誘導支援を行っている。排泄のサインや排泄時の迷いにいち早く気づく事でおむつの使用や失敗をなるべく減らすことができ、トイレでの排泄が保てる様支援。皮膚トラブルを防ぐなどの利点や本人希望で布パンツをはき続けるごとが出来る様支援している。	排泄チェック表を基に個々の利用者の排泄リズムを把握し、生活習慣や仕草にも配慮し其々のタイミングでトイレで排泄できるよう支援しています。チェック表を基に毎日の申し送り時に支援の方法等を話し合い、カンファレンスで排泄用品の種類や布の下着への選択について検討しています。夜間はポータブルトイレを利用している方や睡眠を優先して夜間用のパッドを使用する方もおり、個々の状況に合わせた支援をしています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の量、形状と日頃の食事・水分摂取量、運動量、体調を比較し考え、働き掛けており、職員の意識とスキルの向上を目指している。 便秘症の方は内服に頼ることも多いが、水分を多めに摂って頂く工夫をしている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の思いや希望を最優先している。それ以外では、身体の皮膚状態の観察が必要な為、定期的な入浴の予定は立てているが、順番の希望を聞いたり、一日の予定の中に組み入れる支援をしたり、その他、個々のスタイルを保つ為の要望を柔軟に取り入れている。銭湯に行く楽しみも支援している。	入浴は少なくとも週に2回、7時30分から18時の間で好みの時間に入れるように支援しています。菖蒲湯など季節湯をしたり、個々の習慣を継続する方や好みの石鹸やシャンプーを持参する方もおり、入浴を楽しんでいます。またスーパー銭湯に出かけたこともあります。入浴拒否の方には関わり方やタイミングを図り入浴できるよう支援していますが、入浴できない時には清拭をすることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し生活リズムを整える様に努めているが一人ひとりの生活習慣を尊重し、各々の休息方法を取って頂ける様に支援している。不眠は精神面に大きく影響するので、睡眠の質と時間を申し送り合わせ不眠改善を支援している。 超高齢の方や足の浮腫みが著しい方など、ご本人の体調や病状に合わせ、日昼でもベッド臥床にて足を伸ばして頂く時間を作るなど、メリハリをつけて安静にできるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の定期・臨時処方の最新の薬情をファイル化し、使用している薬の目的や注意事項を全職員が理解しやすい状態にしている。医師から薬の変更や追加指示があれば、変更・追加理由と目的、回数と期間、注意事項を申し送りで共有し誤薬や飲み落としのない様に努めている。薬剤師の先生にご協力頂き、用法等を詳しく説明して頂ける機会を作り、全職員に対し服薬管理の重要性を意識付けている。 スタッフ間の医療申し送りノートにて薬の効果や副作用などの注意事項があれば同時に記入し、共有活用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	車での遠出外出、映画鑑賞、演劇の観劇、音楽活動、カラオケ、花の栽培、外食や銭湯、女性でも顔剃りに理容室へ行くなどの個々の趣味・気分転換法を取り入れ、レクリエーションの機会も作っている。 天気のいい日には陽だまりの中でうたた寝や日光浴、テラスでティタイムするなどの日常がある。 三匹の犬とのふれあいや散歩で商店街を有意義に歩くなど気晴らしが出来る機会を図っている。女性職員を労り、力仕事を率先して担おうをされる男性としてのたくましさを支援させて頂く場面が多い。生活動作の力に沿い、生活歴に合わせ、個々の得意な事で力を発揮できる役割を持てるよう支援している。役割が張り合いに成り、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までの生活の継続で思いついたときに行き慣れた店に買い物やお茶を飲みに行かれたり、図書館へ行かれたり、気軽に戸外へ出かけられる環境を作っている。 花の季節にはお弁当を作り公園で広げたり、盆踊りや祭りに参加したり初詣参拝など季節を感じて頂ける支援を続けている。家族との散歩や外食にも気軽に出かけられる様子も日常的にあり、支援に取り組んでいる。	日々の暮らしの中で自然に散歩や買い物に出かけ、喫茶店に寄って帰ることもあります。玄関先のエントランスに多くのソファを置いたりルーフバルコニー、テラスなど日常的に外に出て外気浴や外で過ごしています。また初詣や花見などの季節の外出や通天閣等への外出行事などを行っています。希望に応じて個別で買い物や馴染みの場所へ出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は清算時の計算と支払の機会を持って頂いている。理解の力に応じて現金を自身で管理・支出計算を日記に付けるなど支援している。買い物や美容室にはご自身の愛用されてきた財布を持って支払をして頂いている。自身での買い物を楽しんでいただき、社会貢献できる自信を維持して頂きたいと考え、個々の持ち続けた能力を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に沿って、個々の家族の受入れが可能な時間帯にはご自由にお電話を使用して頂ける様に支援している。 ダイレクトメールが送られてきた際は過去の生活歴を想い返せる機会に成り得るのでスタッフ一緒に開封し一緒に楽しませて頂いている。 入居者の希望に応じて年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを支援をしている。お元気で過ごされているご様子がわかる様に写真付きポストカードを一緒に柄を選び作成し、ご自身でメッセージを加えていただいたり、お名前を書いていただき完成させている。ご自身で手掛けたお便りを自らポストに入れるまでを支援させていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの採光が良く、気候がわかりやすい。朝にはカーテンを開け夕にはカーテンを閉め時間の移り変わりを感じて頂いている。草花が多く、季節を感じ、五感に伝わることも多いと考える。天気のいい日には陽だまりでの日光浴、テラスを利用してティタイムのおやつを食べたり、空の下での歌のレクリエーションなど、日常的に外気に触れて過ごす刺激がある。季節ごとのイベントと共におやつや食べ物にも季節感に配慮している。朝から夕方まで庭に洗濯物を干し、晴れた日には太陽を感じ、雨空を見極めて洗濯物を取り込むなどの日常がある。毎年同じ時期に球根を植え、花を咲かせて、あちこちに水差しに飾って皆を楽しませてくださる方もおられ、庭先の花を摘み、それを食卓に飾るなど情緒深く感じる場面も多い。入居者の手作りの物や気に入った物を飾ったり、居心地易さに工夫している。加湿器など用いて湿度と温度などの把握に努め、適正な空調管理を日々心がけており、環境整備の意識作りを日ごろから取り組んでいる。	共有空間は広く食卓やリビングの他に廊下やエントランスなどにソファや椅子を置き、好みの場所で過ごせるようにしています。また利用者の身体状況や利用者同士の相性なども考慮しながら手摺を作ったり、家具の配置や座席を決めています。七夕飾りや花を飾り季節を感じられるようにしたり、利用者の目線を考えてわかりやすい表示をする等の配慮をしています。日々の掃除で清潔を保ち温湿度管理にも注意を払っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで庭の散歩や腰を下ろし、緑に囲まれ過せる空間がある。玄関先でも心地よい風を受け静かに過ごす事が出来る。 気の合った利用者同士、玄関先のベンチで憩う様子も日常的である。外の陽だまりの中でお茶を飲んだりできる工夫もしている。 憩いの場所が苑内に多数あり、皆から離れて一人でもゆっくり寝そべることが出来るソファや長椅子が配置してある。 本棚のそばで本がお好きな方同士で読書されている静かな時間が流れる時間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込んで頂いている。あえて、新しいものは必要ではないことを伝え、説明している。使い慣れた物を置く事で安心して頂いている。レイアウトもご本人と相談し、いつでも変更できるようにしている。	入居時に使い慣れたものを持って来てもらうよう説明し、タンスや椅子、テレビ等を持ち込暮らしやすいように配置しています。大切にしている仏壇を置いたり写真を飾り、趣味の書道の道具やハーモニカ、ウクレレなどを持ってきている方もおり、その人らしい居室作りをしています。希望で畳を敷き布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	記憶の交差など混乱が見られた場合、問題点に着目し、混乱が軽減するような支援を勘案している。場所の迷いなどはわかりやすく、目立つ様に目印を付けたり等の工夫を施している。ゆっくりと説明、何度でも説明、わかりやすい表示など実施している。成功体験を実感し自信を持ち続けることが出来る様支援している。常に動線を確保と安全な環境整備に努めている。		